

環境月間特集: 知ってほしいな アカウミガメのこと



田原市の太平洋沿岸は、アカウミガメの貴重な産卵地です。毎年初夏から夏にかけて、親ガメが上陸して、砂浜に産卵しています。彼らの生態を学んで、海の大切さについて考えてみましょう。

▲産卵後に海へ向かうアカウミガメ(赤羽根大石海岸)

▶環境衛生課 ☎ 23局3541

♥ 北太平洋では日本だけ

毎年5月になると、日本の各地でウミガメの産卵のニュースが聞かれるようになります。ウミガメの種類は全部で7種類ありますが、日本の近海で見られるのは、「アカウミガメ」「アオウミガメ」「タイマイ」「ヒメウミガメ」「オサガメ」の5種類です。ニュースで聞かれる大部分はアカウミガメで、関東の太平洋沿岸を北限として、沖縄周辺までが産卵地となっています。アカウミガメの生息域は、太平洋・大西洋・インド洋などで、北半球と南半球に分かれます。北太平洋では、日本の沿岸がアカウミガメの唯一の産卵地といわれており、田原市の太平洋沿岸(表浜)も、その一つです。ですから、これら日本における貴重な産卵場所を守らないと、彼らは絶滅してしまう恐れがあるのです。

♥ アカウミガメの生態

アカウミガメの甲羅は赤褐色や褐色で、成長すると体長は約1m、体重は約100kgにもなります。雑食で、クラゲや海藻、甲殻類や魚をエサとし、前足で海底の砂を舞い上げて、出てきた獲物を食べます。

◆ 産卵

産卵期は5月中旬から8月中旬ごろまで。人気のない夜10時ごろから深夜3時ごろまでに上陸してきます。後ろ足を器用に使って60cm程度の穴を掘り、1回に120個くらいの卵を産みます。大きさはピンポン玉くらいで、シーズン中3回くらい産卵に訪れます。



▲アカウミガメの産卵巣

◆ ふ化

産卵から2カ月後、子ガメがふ化し始めます。産卵巣の中には100個以上の卵があり、一匹が生まれるとそれに刺激されて他の卵からも次々と生まれ、全部がそろってから、夜になると一緒に地表へはい出し、海中へ入っていきます。

親ガメになるのは数千匹に一匹といわれています。また、親になって産卵できるまでには10年から15年かかり、産卵のために生まれた海岸へ再び戻って来るといわれています。